

## CAFE + MUSEUM SHOP

ミュージアムショップでは、展覧会図録や関連書籍、ポストカード、静岡市美術館のオリジナルグッズなどを販売しています。併設のカフェでは、香り高いコーヒーや静岡産の紅茶などもお楽しみいただけます。



### 美術館からのお願い

- 展示作品にはお手を触れないようお願いいたします
- 展示室内での撮影はご遠慮ください
- 作品保護のため、展示室内では鉛筆以外の筆記用具の使用はご遠慮ください
- 展示室内では携帯電話はマナーモードにし、使用はご遠慮ください
- カフェ以外での飲食はご遠慮ください
- ペットをお連れの方、植物をお持ちの方は入館できません

### サービス

- コインロッカー／傘立て  
※ご利用の際、100円硬貨が必要です。使用後に返却されます。
- 車いす・ベビーカー貸出  
※インフォメーションにて無料で貸し出しています。

### 開館15周年記念スタンプラリー

2025年4月～2026年3月開催の展覧会のうち、3つの展覧会をご観覧いただいた方、先着300名様にしずび15周年オリジナルグッズをプレゼント!

- ※本紙中面に、3つのスタンプを集めてください。他の用紙からのスタンプの移行や統合はいたしません。
- ※1人1回限り、本人のみ有効、他人への貸与・譲渡はできません。
- ※紛失破損などの際の再発行はできません。
- ※プレゼントの内容は変更する場合があります。



静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業  
静岡駅前の静岡音楽館AOI、静岡科学館る・くる、静岡市美術館では、三館共同事業を開催しています。

- 《電車》 JR静岡駅北口より地下道を利用して徒歩3分  
静岡鉄道新静岡駅より徒歩5分
- 《新幹線》 東京駅・名古屋駅から東海道新幹線ひかり号で約1時間  
新大阪駅から東海道新幹線ひかり号で約2時間
- 《車》 東名静岡ICより約15分  
※お車でお越しの際は、近隣の駐車場をご利用ください。
- 《空路》 富士山静岡空港より静鉄バス  
(静岡エアポートライナー)で約1時間

開館時間 10:00～19:00 (展示室入場は閉館30分前まで)  
休館日 月曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)  
年末年始  
観覧料 展覧会により異なる。中学生以下無料。  
交流ゾーン、ショップ利用は無料。  
◎展示替え期間中も交流ゾーンは開館しています。 夜7時まで開館

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F  
Aoi Tower 3F, 17-1, Koyamachi, Aoi-ku, Shizuoka, 420-0852 JAPAN  
tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

## スケジュール 2025-2026



静岡市美術館は、JR静岡駅北口の「葵タワー」3階に、2010年開館し、今年15周年を迎えました。「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」を基本理念として、展覧会事業と交流事業を柱に、「街の中の広場」のような美術館を目指し、これからも活発に活動していきます。

### 交流事業

ミュージアムショップ&カフェのあるエントランスホールや、多目的室、ワークショップ室を「交流ゾーン」と呼んでいます。ここでは様々なアートシーンの紹介や講演会、シンポジウム、コンサート、映画上映やワークショップなどを実施しています。また、展覧会ごとに学校等の団体を対象にした鑑賞教室「ミュージアム教室」も実施しています。



「Shizubi Research+ 倉俣史朗と静岡」photo/稲口俊太



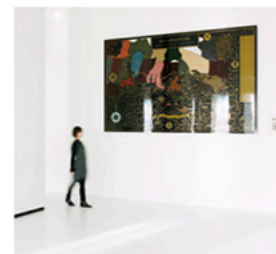
ワークショップ室「オープンアトリエ」の様子



多目的室 講演会の様子

### 東海道五十三次ひとめ図

2012年1月、東海道を“ひとめ”で見渡せる漆工芸作品がエントランスホールに誕生しました。静岡の伝統工芸を今に伝える、蒔絵師、塗師、指物師の皆さんによる2×3mの大きな作品です。



笠岡市立竹喬美術館名品展

## うつりゆく自然を描く 小野竹喬の世界

2025年4月12日(土) - 5月25日(日)

岡山県笠岡市出身の日本画家・小野竹喬(おの たけきょう 1889-1979)は、明治36(1903)年に14歳で竹内栖鳳に入門して以降およそ75年間にわたり、季節の移ろいのなかで目にするささやかな自然の表情を、鮮やかかつ明快に描き続けました。やがて夕焼けの茜空を題材に刻々と変化する空や雲の様相を詩情溢れる色彩で表現する境地に到達し、生涯にわたる画業が評価されて昭和51(1976)年に文化勲章を受章しました。本展では厳選した笠岡市立竹喬美術館の名品により、竹喬が生涯を通して追い求めた自然表現の精華をご覧ください。



小野竹喬《野辺》  
昭和42(1967)年 笠岡市立竹喬美術館

## きもののヒミツ 友禅のうまれるところ

—京都 千總コレクションを中心に

2025年10月25日(土) - 12月21日(日)

日本の伝統的な衣装・きもの。反物を直線縫いで仕立てるため強い平面性をもつ一方、施された多彩な意匠は、衣服として身にまとうことで立体性が生まれます。この平面と立体を行き来するところに、はじめから立体裁断で制作される洋服とは異なるおもしろさがあります。本展では友禅の老舗・千總のコレクションを中心に、近世・近代のきものや当時の流行を反映した雛形本、円山応挙と近代の京都画壇の絵画、工芸品等を通じて、きもののデザインが生み出された背景や制作者の創意に迫り、これまでにない視点から「きもののヒミツ」を紹介します。



《納戸麻地春秋景に御所車殿舎文様地子》  
江戸時代後期(19世紀初期) 株式会社千總ホールディングス

## パウル・クレー展 創造をめぐる星座

2025年6月7日(土) - 8月3日(日)

抽象的でありながら、詩情豊かな物語性のある作品で知られるスイス・ベルン近郊生まれのパウル・クレー(1879-1940)。孤独に瞑想する芸術家としてのイメージが強いクレーですが、同時代の芸術家との交流や美術動向との関わりがなかで作品が生み出されてきたことはあまり知られていません。本展はベルンのパウル・クレー・センターの学術協力のもと、同センター、パーゼル美術館、日本各地の美術館から集めたクレー作品約60点を核に、カンディンスキー、ピカソ、ミロなどの作品を加え、クレーの生涯にわたる創造の軌跡を捉え直します。



パウル・クレー  
《赤、黄、青、白、黒の長方形  
によるハーモニー》1923年  
パウル・クレー・センター、ベルン

日本中の子どもたちを笑顔にした絵本作家

## かがくいひろしの世界展

2026年1月10日(土) - 3月22日(日)

累計発行部数1000万部を超え、子どもたちに広く愛される絵本「だるまさん」シリーズの作者、かがくいひろし(1955-2009)。50歳でデビューし、病で急逝するまでのわずか4年の間に16冊もの絵本を発表します。特別支援学校の教員だったかがくいは、長年の現場経験で培われた知見や実感をもとに、誰もが笑顔になれる絵本の制作に情熱を注ぎました。没後初の大回顧展となる本展では、全16作品の絵本原画をはじめ、創作の源泉となったアイデアノートや教員時代の映像記録などの貴重な資料により、かがくいの足跡と絵本の魅力に迫ります。



かがくいひろし 《「だるまさん」表紙原画》2007年  
©Hiroshi Kagaku / Bronze Publishing Inc.

## 柚木沙弥郎 永遠のいま

2025年8月16日(土) - 10月13日(月・祝)

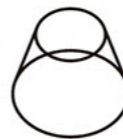
惜しまれつつも、2024年1月に101歳の生涯を閉じた、東京出身の染色家、柚木沙弥郎。柳宗悦らの民藝運動と出会い、芹沢銈介のもとで染色の道を歩みはじめた柚木は、清水や由比で修業時代を過ごした、静岡にもゆかりある作家です。本展では、染色作品をはじめ、版画、絵本原画、立体作品など約300点により、染色を主軸にジャンルの垣根を超え展開した創作活動の全貌をご紹介します。日々の暮らしの中に見出した喜びから作品を紡いだ柚木の仕事は、大切に慈しみたい「いま」を私たちに示してくれます。伸びやかな形と美しい色彩をお楽しみ下さい。



柚木沙弥郎  
《型染布「2016」》(部分)  
2016年 日本民藝館

### 美術館ロゴマークと15周年記念ロゴマーク

美術館のロゴマークは、静岡、そして日本を象徴する富士山をモチーフにしています。重ねられた2つの円には、美術館を中心とした人の輪の広がり、地域と世界を結ぶイメージが表されています。また、視点と奥行きの変化による「視ることの楽しさ」にも気づかせてくれます。



ロゴから生まれた15の文字。グレーの面で新鮮な印象を、翼や旗のようなフォルムで高く舞い上がるイメージを作り出し、美術館が目指すべき今後の姿を表現しました。

### 開館15周年記念スタンプラリー

3つの展覧会をご観覧いただいた方、先着300名様にしずび15周年オリジナルグッズをプレゼント! 展覧会毎にスタンプが変わります。3つの異なるスタンプを集めてください。



スタンプ押印期間	2025年4月12日(土) - 2026年3月22日(日)
記念品引換期間	2025年8月16日(土) - 2026年4月30日(木)
引換場所	静岡市美術館受付